

道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK



「遊びは本気で」を地でいく面々は、遊びが集合。予習・復習もバッチリ!



土手向こうの畑や住宅や観光施設は見え、ここはアラスカ?北海道?



倒木と水草と川霧でジャングル風だったところ。綺麗すぎて涙がでそう!

「暑い!暑すぎる!」と何度叫んだか分からない今年の夏。そのお陰で水浴びしたくなり、リバーカヤックを再開してしまいました。20年前に遊んでいたのは、シーカヤックなので、正しくは「始めた」でしょうか。四万十川や釧路川や長良川などかつて下った10ほどの川は、ほとんどがレンタルなので、このたびはインフレーター・タンデム艇を手に入れたのは、新鮮な喜びでした。カフエで空気をいれて何度もパドル練習し、いよいよ9月初めに初・地元川下り。驚いたのは、「やるぞー」と叫んだ途端に周りで3家族もカヤックを買ってしまったこと。いつもは見守り役の夫も「や

ろのかな」と声を上げたのですが、きつとみんな暑かったでしょう。さっそくグズ選びにアウトドアショップに通い、先に試漕した仲間の話を聞いては、メドレして、ドキドキでXデイを迎えました。雨が止んだのは、予定時間過ぎ。水かさが増えて濁ってはいけれど、コデー・インターネットの地元アウトドアマンの高井さんとゲストインストラクターの野村さんの判断はGO。17人のうち、半分が初心者という仲間内のイベントですが、みんな目がキラキラ。実は集まった面々は、全2輪4輪に長けたモーターファイン。ライダーにカヤック経験者が多いことも今回びっ



三好礼子 エッセイスト・元国際ラリスト ~ http://www.fairytale.jp/~

★三好礼子の★ ナチュラル・ロード

「どこか、漕いでみてから修正するね」など声と笑いが飛び交っています。ここ安曇野平野を流れる万水(よろずい)川は、スタートから犀川手前までのたったの3キロですが、水は驚くほど綺麗で、雨後でなければ川底がはっきり見えるほど。狭いけれど、ほとほとの瀬や緩く流れる休憩場もあり、初心者には持ってこい。カヤックツアラー会社も多く、遠くから足を運ぶ入気の川というのを今回初めて知りました。確かに水面からは空と緑の法面しか見え、車で通る時には気がつかない不思議世界が広がっています。時間も停止したよう。しかしこの万水川、スタート直後は流れが速いので、初心者艇はほぼクルクルしながら大騒ぎ。膝までと浅いところで艇もありませんが、ズーッとみんな大笑い。こちらは相棒が体育会系だったのだから、この間に上達し、中間地点ですらパドルワークもびっぴり。このまま日本海まで行けそうなの



マイカヤックに乗る夫と友人の敬子さん。私とより息が合っていないかい?!



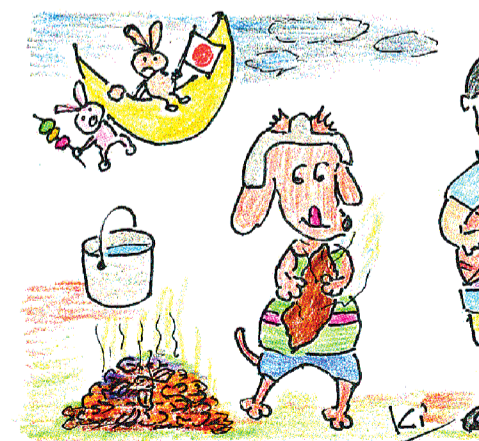
女子8名は、ほぼ大型二輪免許保持者。好奇心の塊のフィフティー前後。

「大王わさび農場の蓼川を逆走するとき、観光客の応援に励まされた!」「黒水車の横溝、なんて信じられない!」「今度はソコ艇に乗りたいたい」「幻想的な霧がよかった」など好評。私はイントラさんが話していた様子上流から犀川の明科までをツーリングしてみたいなあ(30キロくらいありそう)と妄想中。ペットボトルやビニールゴミも気になったので、クリーンアップ大作戦もやりたいなあ。でも、川は広くて流れがあるので、山道より手強そう。という訳で、身近な川で水遊びしたこの夏、涼しくなると思えば、みんなさらさら熱くなってしまったようです。写真・下平朱美生

「きょうりとスイカ流れてきたのが可笑しかった!」

「きょうりとスイカ流れてきたのが可笑しかった!」

都市計画の中の道路(20) 代都市計画の曙(その2) 東洋大学国際学部・准教授 志摩憲寿



「ハット 思いました」

子供の頃、暑い日が続く夏の日に、数少ない舗装された道の黒いアスファルト部分がチョコレートのようにならなくてスツクのもので小枝でもなにかありました。近年そんな場面に出くわす事などありません。舗装の技術が向上したおかげです。むしろ舗装のない道や土の部分を探すが難しい日常です。そういえば、免許取得したばかりの頃、暑い日の田舎で、木々が生い茂り空

「急遽な都市化の中で、コメリアではルイス・マンフ

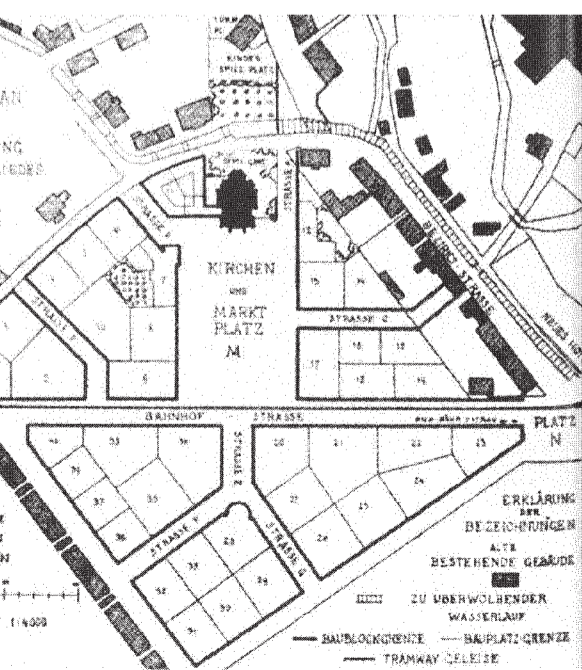


図 ジッテの設計したプジーヴォス(Privoz)地区(現在のチェコ第3の都市オストラヴァ) (出典:タフーリ(2002))